



2016年6月30日

国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター

第134号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- コロキウム、ジェネラルミーティング&親善パーティ
- 中南米地震工学研修 関西研修旅行レポート
- Year Book 2016

## 研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## コロキウム、ジェネラルミーティング & 親善パーティー

国際地震工学センター 管理室 室長 山下 崇

第3回コロキウム(研修生による発表セミナー)が、5月27日(金)、5月31日(火)の二日間にかけて IISEE にて行われました。初日は、地震工学コースの研修生により、彼らの個人研修レポートの概要について発表が行われました、2日目は地震学コース及び津波防災コースの研修生により同様に発表が行われました。

6月1日から、研修生は修士論文を書くために個人研修に取り組み始めました。5月31日(火)のコロキウム終了後、ジェネラルミーティング(GM)を実施しました。GM では、研修生は講義や日頃の生活などについての感想や気が付いたことについて意見を述べました。

GM に続いて、親善パーティーが開催されました。このパーティーは、研修生が苦勞する個人研修を乗り切ることができるようにと、IISEE が企画しました。パーティーは林田主任研究員の司会により始まり横井センター長から励ましのスピーチがありました。今回は約1/3の研修生が IISEE の外で勉強します。彼らは北海道、仙台、東京、千葉、豊橋、京都で指導者の下で勉強をします。おいしい料理と和やかな雰囲気の中、最後は日本スタイルの一本締めで締めパーティーは終了しました。

## 中南米地震工学研修 関西方面研修旅行レポート

(1) Mr. ALVAREZ REYES Ronald Stephan (チリ)



この研修は初めから感銘深いものでした。

1000 年以上もの長い歴史をもつ古都を訪れ、その文化に触れることで、私は今後も専門家として、そして人間として成長し続けていきたいという気力に満たされました。

研修旅行中に訪れた資料館やその間に観たビデオ・写真・数多くの体験談などを通して日本人が受けた自然災害の強烈さを感じ取りました。そして、これに立ち向かい、打ち勝ってきた人々の能力に驚嘆し、尊敬の念を抱かずにはいられません。ますます日本文化について学びたくくなりました。

レベルの高い多くの講師からの構造解析・耐震設計・耐震補強において事例に

基づいた素晴らしい講義を受けることができ、将来を築くうえで不可欠な多くの知識と経験を蓄えることができた自分はとても幸運です。

私の一生を考えるとこの研修の期間は短く、得た知識もまだまだ十分なものはなく、皆さんとまた再開し、交流を深めたいです。

### (2) Ms. RODRIGUEZ RODRIGUEZ Lizeth (エルサルバドル)

私たちは 7 日間で名古屋、神戸、京都、東京の 4 つの都市を訪れました。私たちの旅行にはたくさんの感動とアドレナリンに溢れていました。特に、神戸で明石海峡大橋の上に行った時です。私たちはまた名古屋での減災連携研究センターでの建物の改造の重要性を重視した講義を楽しみました。一方で、京都では仁和寺や金閣寺の世界遺産の寺社を訪れ、日本文化や歴史を振り返りました。



私たちは大林組と大成建設を訪れ、建設技術や、研究への設備能力、建設事業の忠実な進歩を見てきました。

この旅行はとてもよく構成されており、そして私たちは一つにまとめることができましたので、旅行中には時間を守ることができました。

研修旅行で私たちが訪れた場所は、このコースで学ぶ上でとても非常に重要な場所でした。なぜなら私たちは資源、結果、研究の普及、縮尺模型の検査の設備、補強の方法等を見ることができたからです。

この旅行で一番の経験になったのは地震の加速を導入した免震の備わったビルに行ったことです。

この旅行は素晴らしいものでした。

### (3) Mr. RUGAMA IDIAQUEZ Maycol Christopher (ニカラグア)

まず初めに、私たちにこの素晴らしい機会を与えてくださった、日本の兄弟、特に建築研究所のスタッフに感謝申し上げます。

研修旅行は 2016 年 5 月 30 日にはじまりました。私たちは美しい歴史的寺院を訪れました。東京のように重要な都市の名古屋、京都そして、神戸を訪れました。1995 年に大きな地震が神戸を襲いました。

神戸では地震があった当時の経験だけでなく、地震の後の復興の話も共有しました。

地震後の当時の状況を再現した街並みも体験しました。振動台を使って、神戸の地震のマグニチュードを体験する機会も得ました。

私たちが訪れた中で一番心打たれたのは、世界一長いつり橋として知られている明石海峡大橋と、E-defense と呼ばれる振動実験施設を持つ防災科学技術研究所です。

私の国、ニカラグアの偉大な詩人、ルベンダリオは言いました。

小さい国は大きな夢を持とう。日本人は夢が実現されていないなら寝ずに働きます。これは素晴らしいことです。

威厳ある土木構造物が日本の二つの島をつないでいます。私たちは明石海峡



## 論文募集

IJSEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

大橋の2つのメインタワーに登る機会を得ました。頂上からの観測は素晴らしいものでした。

日本でのこの経験は今までに体験したことのないものでした。  
私は親身になってくれる日本の方々から心からお礼を伝えたいです。

#### (4) Ms. CORNIEL ZARRAMERA Yoxela Del Valle (ベネズエラ)

私の母国ベネズエラの JICA から電話を受けた時も、日本での最初の1週間もこの研修が現実のものとは思えませんでした。研修旅行の間に、日本の科学技術、文化、そして美食学をじっくりと観察することができ、そこであらためて美しい物について学び、体験するという私の夢が叶ったことを実感しました。

日本の土地・文化・教育をどれだけ深く愛し、大切に思っているのかが、講師や出会った人々からはっきりと感じ取ることができ、感銘を受けました。

神戸では、人々の強い決意・献身・綿密な計画が地震によって大きな打撃を被った町を記録的な短期間で復興させたのだと理解できました。

それぞれの土地には特有の歴史がありますが、みんな自然を共有しています。自然は優しいものですが、時にはとても恐ろしいものに姿を変えます。

未来の人々と話すことができたら“謙虚”という言葉伝えたいです。必要な時に正しく使うことができないのであれば過剰な知識は持つ必要がありません。

私たち研修生は、それぞれ特技を持ち、この研修で得た新しい知識を基に向上していける者として選抜されました。

この研修旅行により弛まない努力と献身は知識の限界を超え、成功をもたらすことを学びました。この素晴らしい人生に感謝します。



楽しむのは今です。



## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは下記をご覧ください。

http://iisee.kenken.go.jp/nldb/



## Year Book 2016

IISEE では2年に一回 Year Book を発行します。只今新しい YearBook の準備中です。7月にレスポンスシートをお送りしますので、iisee@kenken.go.jp まで返送をお願いします。

8/31 までにいただけると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。